

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	児島 一州
所属機関名	獣医学部 獣医学科
職位	助教
在籍年	1 年

教育の責任

主たる教育活動として、獣医学部 2 年生を対象とした、細菌やウイルスの取り扱い・消毒方法などの基礎的な知識や技術を学ぶ実習（微生物学実習・感染症学実習 A）の担当および微生物学講座の学生の研究支援を行っている。

教育の理念

「獣医学分野における微生物学の重要性」を伝えると共に、「学問としての微生物学の面白さ」を実感させることを心掛けている。現在でも動物に甚大な被害をもたらしているのは感染症であり、その予防・蔓延防止に対応しているのは獣医師である。動物疾病を鑑別し、対応していくためには、病原体の知識や検査法を理解していることが必須である。

また、微生物学の学問としての面白さにも学生に知ってもらいたい。重篤な症状を引き起こす細菌やウイルスであるが、普段はどのように生活しており、そしてどのようにして動物に疾病を起こしているのかなどの現象を追求していく楽しさを感じさせることを心掛けている。

教育の方法・方針

実習では学生自身が現場の公務員獣医師になった場合を想定した実習を行っている。複数種類の菌液・ウイルス液を配布し、複数の検査を通じて病原体の同定を行わせる。学生の理解度は各回の小テストおよび最後に提出させるレポートにて判定する。

また、各病原体については近年のニュースや発生状況、研究内容、そして質問なども織り交ぜて説明することで、病原体それぞれの特徴を印象づけられるように努めている

教育の成果

授業評価アンケートにて「微生物学分野の理解が深まった」・「興味・関心が高まった」の点を過半数以上の学生から評価された。また、「授業に対する教員の意欲に関する評価」では 9 割以上の学生から最高評価をもらった。自由記述欄では「微生物学の面白さが理解出来た」などの意見を多くもらった。

実習説明中には度々学生から質問する時間を設けていたが、質問された機会はほとんどなかった。しかし、実験を開始した途端に個人で質問に来ることが多かった。全体への説明中に質問すると注目が集まる気恥ずかしさから遠慮する学生が非常に多かったと思われる。

今後の目標

アンケートの回答から、微生物学の理解や学術的な面白さを学生に伝えられたことは感じた

が、現場の獣医師としての意識に関するコメントはなかった。そこで、現場の獣医師として行う内容により類似した実習形式に変えていきたい。具体的には、最初にサンプルを配布するだけでなく、患畜の状態、採取場所などをより詳細に設定し、リアリティを高めた実習に変更していく。

また、これまでの講義にて、質問をしたいが注目は浴びたくないという課題が見えたため、個人を特定しない方法でリアルタイムに質問できるようなシステムを導入していきたい。

根拠資料

講義のパワーポイント・講義関連資料・授業評価アンケート